

活 動 報 告

「第2回野火止用水歩き」久米川駅から清瀬駅まで

記 野老澤の歴史をたのしむ会

茂出木 正和

実施日時 2020年11月5日(木) 9時30分～12時20分

参加者 24名

1、はじめに

昨年秋に続く「野火止用水歩き」の久米川駅～清瀬駅編のウォーキングです。

本年4月16日に予定されていたものを約半年後に実施できました。新型コロナウイルス感染防止に留意しつつ、秋晴れの中 野火止用水沿いに久米川駅から清瀬駅まで約6kmのウォーキングを楽しみました。

2、集合 [9時30分集合、9時38分出発]

西武新宿線久米川駅南口改札前の駅前広場に午前9時30分参加者が集合、久しぶりのウォーキングのためか24名の多くの方々が集まった。

担当者紹介、大館代表の挨拶、注意事項、コース確認の後、清々しい朝の空気の中9時38分野火止用水歩きを元気良く開始した。



3、コース概要

久米川駅（南口）⇒新青梅街道交差点⇒稲荷神社⇒万年橋のケヤキ⇒東村山運動公園（休憩）⇒恩多一丁目交差点⇒下里六丁目バス停付近より林間の散策道⇒界橋交差点⇒富士浅間神社⇒押出し橋⇒下里本邑遺跡公園（休憩）⇒押出し橋⇒松山三丁目交差点⇒野火止橋⇒西武池袋線清瀬駅（解散）

4、食事

設定なし（3密を避けるため全体での食事会の設定はなし）

5、担当

A グループ 黛 雅昭、谷恵子、茂出木正和

6、散策記録

①稲荷神社（隣の公園にトイレ有り）〔10 時到着〕

恩多町三丁目、大岱村の鎮守で大泉寺が別当であった。ウカノミタマノミコトが祀られており。寛延 4 年（1751）京都の伏見稲荷大社から神霊を勧進したもの。

②万年橋のケヤキ〔10 時 15 分到着〕

恩多町一丁目、用水の岸に勢いよく根を伸ばして橋のように流れをまたいているので俗に万年橋のケヤキといわれる。（市天然記念物・東村山 30 景）



③東村山運動公園（トイレ休憩）〔10 時 30 分到着、40 分出発〕

恩多町一丁目、東村山市の総合スポーツグラウンド、昭和 59 年（1984）開園。

④林間の散策道（下里六丁目バス停付近）

野火止用水沿いの雑木林にある散策道、武蔵野の面影が感じられる。



⑤富士浅間神社〔11 時 15 分到着〕

清瀬市竹丘二丁目、地元では三角山といわれている。南沢氷川神社が管轄しているが東久留米下里氏子会により守られている。大正 14 年「富士太々講」の碑もあり。

⑥下里本邑遺跡公園（トイレ休憩）〔11 時 25 分到着、記念撮影、45 分出発〕

下里第二住宅の建設に伴い昭和 53,56 年に発掘調査が行われた。舌状の台地上から旧石器時代、縄文時代、弥生時代、奈良・平安時代の各時代にわたる生活跡が発見された。黒目川流域を代表する遺跡である。

約 8 千㎡の遺跡公園に下里本邑遺跡館が併設されており、館には河原で営まれた縄文時代早期の生活跡や地層が立体的に復元・展示されている。

下里本邑遺跡館の南には黒目川が滔々と流れ、野火止用水との標高差を感じると共に江戸時代の用水開削技術の精緻な設計・施工に驚かされた。



⑦押出し橋から野火止橋まで〔野火止橋 12 時 10 分到着、清瀬駅 12 時 20 分到着〕

押出し橋から野火止橋までの歩道を野火止用水沿いに歩く、晴天の中 ところどころ狭いところがあるが、用水沿いの歩道を気持ち良く歩くことができた。

今回用水巡りとしては久米川駅の踏切付近より野火止橋までで、全体としては約 3 時間のウォーキングでした。天候に恵まれ道沿いの歴史を訪ねながらの気持ち良い散策となりました。次回は野火止橋から平林寺までの行程となる予定です。

参加された皆さまのご協力に感謝いたします。有難うございました。

豆知識

（出典 東京都水道局ホームページ、新座市ホームページ）

「玉川上水」

徳川家康が江戸城へ入府後 50 年程経ち、江戸の人口増による上水の不足がおこり、1653 年（承応 2）幕府は多摩川から水を引き水路を掘る壮大な計画を許しました。総奉行は老中松平伊豆守信綱、水奉行は関東郡代伊奈半十郎で、玉川庄右衛門・溝右衛門兄弟がこれ

を請け負いました。難工事になり、信綱は家臣の安松金右衛門・小幡助左衛門に補佐を命じ、これを8ヶ月で完成させました。羽村取水口から四谷大木戸までの素掘りによる全長約43km、標高差約92mの緩勾配で、自然流下方式による導水路です。翌年1654年6月には虎の門まで地下に石樋、木樋による配水管を布設し、江戸城をはじめ四谷、麴町、赤坂、芝、京橋方面に至る江戸南西部一帯に給水しました。松平信綱はその功績により川越藩領内の野火止に玉川上水の分水を許されました。(分水割合は玉川上水7割・野火止用水3割といわれています。)

「野火止用水」

1655年(承応4)松平信綱は野火止用水を開削します、工事担当を家臣の安松金右衛門に命じ、費用は三千両を要したといわれています。現在の東京都小平市から掘りおこし野火止台地を経て新河岸川に至る全長約24kmにも及ぶ用水路です。この開削に前後し、農民を野火止に入植させ新しい村を創り新田開発を行いました。その後1662年(寛文2)に懸樋により、用水が新河岸川対岸の宗岡(志木市)に引かれ、また分水が館村(志木市)や宮戸新田(朝霞市)の新田耕作等に使用されるようになりました。